

こんな学校でありたいⅣ

～児童生徒の人権を尊重した教師の言葉～



2019年3月

茨城県教育研究会 人権教育研究部

体罰や暴言は、児童生徒の人権侵害!!

体罰や暴言につながる主な考え方

児童生徒は、判断力が未熟であり、指導される立場にあるのだから、多少の体罰や暴言は受け入れるべきだという考え方

自分自身の評価や満足感を得るため、性急に結果を求める考え方

部活動や校内大会等における勝利至上主義の考え方

自分自身が厳しい指導で鍛えられたので、ある程度の体罰は必要かつ有益であるとする考え方

何やってたんだ！
もう授業は始まっている。

頭があるんだから
使いなさい！

やる気がないなら
出て行け！



何回言ったら分かるんだ！

うるさい！
今は私の話を聞くとこころだ。

お父さんは立派な人
なのに、何でおまえは
パッとしないんだ？

こんな話し方していませんか？

へたくそ！
やめてしまえ！

太りすぎじゃないの？

日本語が
分からないのか？



ほかじゃないの？
何で教えたとおりに
できないの？

あんな子に負けて
恥ずかしくないの？

〇〇のくせに…

人権意識を高めよう

人権感覚のチェックリスト

私たちは普段、人権ということ意識して過ごしているつもりでも、知らない間に誰かの人権を侵害してしまっていることがあります。恐ろしいことに、人権を侵害している側はそのことに気付かず、相手にとって深刻な問題であると感じていないことが多いのです。

今、私たちは教師として児童生徒の前に立っています。私たちが行動モデルとなっていることを意識して、人権感覚を高めていくことが大切です。

それぞれの学校生活場面で振り返りをし、人権感覚を磨いていきましょう。

〈月に1回セルフチェックをしてみましょう。〉

●朝の会

- ☐ 急に登校時刻が変わった児童生徒のことを気にかけていますか。
- ☐ 登校してきた児童生徒に「おはようございます。」とあいさつをしていますか。
- ☐ 欠席児童生徒のことを、学級の児童生徒が意識できるようにしていますか。
- ☐ 人権にかかわる話題を紹介し、児童生徒に考えさせていますか。

●授業中

- ☐ 一人一人の発言を大切にに取り上げていますか。
- ☐ 一人一人の頑張りを認め、みんなの前でほめるようにしていますか。
- ☐ 児童生徒が安心して考えや思いを発言できる授業の雰囲気をつくっていますか。
- ☐ 間違った答えも大切にし、児童生徒が学習意欲を損なわないように配慮していますか。
- ☐ 児童生徒の視力、聴力、座席位置等に配慮して、板書、資料提示をしていますか。
- ☐ 開始時刻、終了時刻を守っていますか。

●休み時間

- ☐ 一人でいる児童生徒に声をかけていますか。
- ☐ 児童生徒間の人間関係に気を配っていますか。
- ☐ 児童生徒と一緒に過ごす時間を多くしていますか。

●給食

- ☐ アレルギーなどの児童生徒の実態を把握して指導していますか。
- ☐ 児童生徒のテーブルクロスや給食着などが清潔に保たれているか気を配っていますか。
- ☐ 準備や片付けの時、特定の児童生徒が偏った仕事をしていないか気をつけていますか。

●清掃

- ☐ 特定の児童生徒に仕事が押しつけられていないか気をつけていますか。
- ☐ 教室や廊下の壁や掲示物に落書きはないか気をつけていますか。

●帰りの会

- ☐ 1日を振り返り、児童生徒の頑張っていたことをほめるようにしていますか。
- ☐ 欠席者への連絡や配付物等の扱いを適切に行っていますか。

●保護者とのかわり

- ☐ 保護者の願いを受け止め、学級経営に生かそうとしていますか。
- ☐ 保護者と日常的に話し合える雰囲気をつくっていますか。
- ☐ 保護者によって対応が違ってしまふことはありませんか。

●職員室

- ☐ 教師間での言葉遣いに気を配っていますか。
- ☐ 児童生徒の気になる様子や頑張っていることなどがよく話題にあがりますか。
- ☐ 特別に支援を要する児童生徒を把握し、支援方法について共通理解をしていますか。

●その他

- ☐ 児童生徒を指導する際、人格を否定するような注意をしていませんか。
- ☐ 児童生徒同士の相手を罵倒する言葉や暴言等を黙認していませんか。
- ☐ 名簿、連絡網、写真の掲載、成績等、個人情報取り扱いに十分配慮していますか。
- ☐ 集金事務に際して、遅れがちな児童生徒に細かい配慮をしていますか。
- ☐ 児童生徒を兄弟姉妹と比較をしていませんか。
- ☐ 集団としての成果に目を奪われ、児童生徒への配慮に欠ける言動はありませんか。

こんな教師でありたい ～教師の言葉～

始業前・朝の会



「おはようございます。

〇〇さんのあいさつは、
いつも元気で気持ちがいいですね。」

- ・「おはようございます」のあとに一言添えてみると、児童生徒は、自分が大切にされているという自尊心をもって1日を始めることができます。

「〇〇さんの笑顔で、先生はいつも
元気が出てうれしいよ。」

- ・教師が明るい笑顔で迎えると、児童生徒は安心して学校生活をスタートできます。
- ・児童生徒一人一人の顔を見ながらあいさつをし、一人一人の表情を確認することが大切です。



「〇〇さんが欠席で心配だね。
早く元気に登校できるといいね。」
「〇〇さんがいないと、さびしいね。
早く登校してきてほしいね。」

- ・欠席した児童生徒を気遣うような教師の言動から、思いやりの心が育ちます。

「みんなそろっていると、うれしいね。」
「(昨日休んでいた) 〇〇さん、
今日の体調は大丈夫？
何かあったら先生に言ってね。」

- ・「さん」づけで呼名しながら、児童生徒一人一人の表情や声の大きさ、視線などから健康状態や心理状態を把握することが大切です。
- ・人権にかかわる話題を紹介することも、児童生徒の人権感覚を高めることにつながります。



授業中

「どうしたの？
どこが分からないのかな？」
「〇〇からやってみない？」

- ・支援が必要な児童生徒に対しては、その気持ちに寄り添った言葉かけをすることが大切です。



「(～に気をつけて) もう一度
じっくり考えてみよう。」
「ここまではできているよ。
次はどうすればいいかな？」
「きっとできるよ。一緒に考えてみよう。」

- ・児童生徒によって理解度の違いがあることを認識し、できていることを認め、励ますような言葉をかけたり、つまずきに気付くような個別指導をしたりすることが大切です。

「〇〇と考えたんだね。」
「なるほど！そういう考え方も
あるんだね。」

- ・間違えたことを失敗で終わらせるのではなく、発表した勇気を認め、自信をもたせる言葉かけが大切です。誤答を大事にすることで多様な見方・考え方に気付く、互いに学び合おうとする雰囲気が出てきます。



「(文字や絵、画面は) よく見えますか？」
「見えにくいところはありませんか？」
「教科書〇ページの左下の写真を
見てみましょう。」



- ・誰も見える板書の文字の色や大きさ、誰とも聞こえる声の大きさや話す速さ、具体的な指示等に配慮することが必要です。ときには絵や図で説明するなど、授業のユニバーサルデザイン化を図ります。

「(分からなかったら) 周りの友達に
聞いてみよう。」
「友達の考えも聞いてみよう。」
「グループの友達と協力してみよう。」

- ・グループ活動が円滑に進むよう、個別に声をかけたり、全体に対して、「互いに支え合い、学び合うことの大切さ」を常に伝えたりすることが必要です。



休み時間



「〇〇さんの頑張りを、
△△先生が話していたよ。」
「昨日の□□おもしろかったよね。」
「〇〇さんと、最近一緒にいないけど
どうしたの？何かあったの？」

- ・できるだけ時間を共有し、友人関係の変化に気を配りながら、コミュニケーションを深めるとともに、児童生徒の会話の中から気持ちを読み取ることが普段から心がけることが大切です。
- ・孤立しがちな児童生徒に配慮した言葉かけをし、いじめにつながらないようにします。

「いつもの元気がないね。何かあったの？」
「何か困っていることがあったら
いつでも相談においでよ。」
「〇〇さん、とても頑張っているので、
□□に挑戦してみない？」

- ・児童生徒に寄り添いながら、自然に悩みを話せたり、新たな意欲を高めたりする機会をつくることが大切です。気になる児童生徒には、積極的に声をかけ、相談する機会を意図的につくるようにします。



給食

「当番さん、ありがとう！」
「みんなで食べるとおいしいね。」
「最近の楽しみは何？」

- ・準備や片付けも児童生徒とともにやり、係や当番の児童生徒への感謝の気持ちを率先して表すことが大切です。
- ・会話に入れず一人で食べている児童生徒はいないか気を配りながら、会話を通して、お互いを理解するよう努めます。
- ・食べさせることは強要せず、食べることの楽しさ、大切さを感じられるような言葉かけが必要です。



清掃



「きれいになったね。〇〇さんのおかげだね。」
「〇〇さんがきれいにしてけているから
みんな気持ちよく過ごせるね。」
「君たちが担当だからこの場所は
いつもきれいだね。」

- ・一緒に活動し、ねぎらいや称賛の言葉をかけることが、自己有用感を高めることにつながります。自分の活動のよさを認められることによって、児童生徒は必要とされている自分を感じることが出来ます。

帰りの会



「〇〇さんは、みんなのために
係活動を頑張っていますね。」
「〇〇さんの話のように、今日も
皆さんがめあてをしっかりと守る
ことができました。素晴らしいね。」

- ・帰りの会は、1日の生活を振り返り、自分や友達のよさを認め合うことができるよい時間です。互いのよさを認め合える場を設けることで、児童生徒は、「自分が大切にされている」と実感することができます。
- ・一人一人の心の安定を図り、明日への希望につなげていく配慮が大切です。

下校指導



「さようなら。仲よく安全に帰ろうね。」
「また明日、元気に登校してね。」
先生は、待っているよ。」

- ・児童生徒が元気に、そして笑顔で帰宅することが家族の願いです。「今日、登校してよかった」「また明日も元気に登校しよう」という気持ちを高める必要があります。

放課後



「大変だったね。よく話してくれたね。」
ありがとう。」
「〇〇さんは、こんなふうに思ってきたんだね。」

- ・丁寧に積極的に児童生徒の話に耳を傾け、うなずきながら受け止めようとする姿勢が大切です。
- ・親身になって悩みを聞いてもらえる人がいることで、児童生徒は安心して学校生活を送ることができます。

「みんな、一人一人が大切なメンバーだよ。」
「みんなで頑張る雰囲気をつくっていきましょう。」

- ・一人一人がチームにとって大切な存在であることを直接伝える必要があります。
- ・仲間に認められることで向上心や自主性が育ち、自己有用感が高まります。



平成30年度「人権メッセージ」最優秀作品

ぼくはおとこのこです。すきないろはピンクです。だれかがいいました。おとこのこなのにピンクがすきな？おとこのこは、ピンクはだめなんだ。どうしてだろう。なんでだめなんだろう。だれにきいても、みんななんでだめなのかわかりません。おとこのこなのにとか、おんなのこなのになってなんだろう。だれがきめたんだろう。すきなものをすきって、むねをはっていえる人にぼくはなりた。だれかがすきなものを、いっしょにだいじにできるひとにぼくはなりた。

私は今、一番幸せだ。登校する時は毎朝、あいさつしてくれる人達がいて、学校に着けば勉強を教えてくれる先生や、同じ目標に向かって頑張れるクラスメイトがいる。そして、他愛もない話で笑えて悩みを聞いてくれる友達もいる。家に帰れば、話を笑って聞いてくれて、時には叱ってくれる家族がいる。いつもは、恥ずかしくて言えないけど、私を支えてくれる全ての人に感謝の気持ちを伝えたい。

ぼくはみんなよりも考える事が苦手で行動に移す事も苦手で話しをするのも苦手でそれを見ている周りの人達はイライラするかもしれないけれど、どうか見守ってほしい。ぼくも同じようにできないことをすごく悲しく思うのだ。それでもがんばって前を向いて歩いていきたい。みんなとは少し違うぼくだけと同じ場所で生きていきたい。

私は、生まれた時から耳が聞こえません。三才の時に人工内耳の手術をしました。手術をして、はじめて自分の声を聞きました。じいちゃん、ばあちゃん、お母さん、おじちゃんの声も聞こえました。それから一つ一つ言葉を覚えていきました。ときどき聞きづらい言葉や上手に話せない時もあります。でも、みんなと話をするのが楽しいです。でも大ぜいの人達の中に行くと、じろじろ見たりする人もいます。とても悲しくなります。でも私は大ぜいの人達と知り合いになって、たくさんの友達を作りたいです。みなさん友達になって下さい。私にたくさん声を聞かせて下さい。

平成30年度茨城県教育研究会 人権教育研究部 編集委員

役 職	ブロック	学 校 名
部 長	中央ブロック	水戸市立稲荷第一小学校
副 部 長	中央ブロック	常陸大宮市立明峰中学校
	県北ブロック	日立市立河原子中学校
	県東ブロック	潮来市立牛堀中学校
	県南ブロック	つくば市立真瀬小学校
	県西ブロック	結城市立山川小学校
研究推進委員	中央ブロック	常陸大宮市立明峰中学校
	県北ブロック	日立市立泉丘中学校
	県東ブロック	潮来市立牛堀小学校
	県南ブロック	土浦市立新治学園義務教育学校
幹 事	県西ブロック	桜川市立桜川中学校
	中央ブロック	水戸市立稲荷第一小学校

表紙は、平成30年度茨城県人権啓発ポスター「最優秀グランプリ賞」作品

桜川市立岩瀬西中学校 2年生

裏表紙は、平成30年度茨城県人権メッセージ作品

【左上】古河市立古河第一小学校 1年生（最優秀グランプリ賞）

【左下】大洗町立大洗小学校 6年生（最優秀賞）

【右上】ひたちなか市立勝田第三中学校 1年生（最優秀賞）

【右下】茨城県立霞ヶ浦聾学校 小学部5年生（最優秀賞）

※このリーフレットは、茨城県教育研究会人権教育研究部のWebページからダウンロードできます。